# 2017 始動 出でよ 改革の旗手

## 慶大SFCがバックアップ

## ゼミ指導、米国研修— 高校生の意欲喚起

開放的な慶応大湘南藤沢キャンパス＝神奈川県藤沢市（提供写真）

GIAは本年度から慶応大湘南藤沢キャンパス（SFC）と連携し、高校生の起業意欲を喚起する制度を導入する。ビジネスプラン部門・高校生の部の入賞者を対象に、SFCのゼミで入賞プランを英訳、ブラッシュアップする機会を提供。GIAの米国・シリコンバレー研修で現地の投資家を前にプレゼンをしてもらい、その経験を基にSFCのアドミッションズ・オフィス（AO）入試に挑む道筋を示す。

SFC側で連携の窓口になるのは、GIA審査委員長を務める国領二郎教授（総合政策学部、経営情報システム）のゼミ。留学生が多く、英語以外を使わない環境で起業やネットビジネスなどを研究している。

12月2日のファイナルステージに進む高校生の部のファイナリストは今年も3組（各組3人以下）を予定しており、その中で入賞を勝ち取った1組だけが、その年で入賞を入賞の結果を受けて、その場でSFCの担当者と打ち合わせをし、シリコンバレー研修の後はインターネット（2018年4月1日から5月1日）までの間週間に一度のペースでフォローアップを重ねる。来年4月中旬、群馬県内で開催予定のゼミ合宿に参加して最終仕上げをしてシリコンバレー研修に臨む。担当教員1人が全ゼミ参加の旅費や宿泊費はGIA実行委が負担する。

## 5回目群馬のGIA— 起業の輪 全国へ

GIAに倣って、岡山県と石川県で起業家を発掘・育成する取り組みが民間主導で始まった。岡山県地場企業経営者が講師に招き、ビジネス理論や経営者としての心構えなどを学ぶスクールと、革新的なビジネスプランや事業例を表彰する「起業の輪」を開催した。審査会まではほぼ同様の仕組みで運営しており、まだ「岡山版GIA」といった内容だ。コンテストではGIAと同じ「求む、出る杭！」を採用、スクールからエントリー募集、最終審査までほぼ同様の仕組みで運営している。

岡山は中国銀行と山陽新聞社、ともに岡山市に本社を構え、岡山イノベーションプロジェクトを推進し始めた。今年4月にスクールを開講し、11月4日に初めてのコンテストを実施する。キャッチフレーズにGIAと同じ「求む、出る杭！」を採用、スクールからエントリー募集、最終審査までほぼ同様の仕組みで運営している。

石川は起業塾の名称を当初の「金沢イノベーションスクール（ISS）」から「石川ISS」に今年変更、金沢エリアの取り組みをアピールしている。野球の独立リーグ支援など地域貢献活動に熱心なレーガングループ（金沢市）の喜多茂一CEOを軸に同市内の民間4社が運営委員会を組織し、喜多氏がスクール群馬で講師を務める。

スクールは生徒募集で選ばれた経営者や学生らが代わる代わる4時間の講義で、GIAと同じ早稲田大ビジネススクールの長谷川博和教授ら地元経営者の講義で、GIAと同じ「求む、出る杭！」を掲げ、収支計画や売上予測、市場規模などを盛り込む3分、5分、15分の提案も作れる。発表後の質疑に備え、学生との議論で想定される問いを掲げておくのも大切だ。そうする中で英語力は鍛えられる。

AO入試に挑むかどうかは入賞者の判断だが、GIA実行委が描いたシナリオは、「ゼミ」に始まり、2次（プレゼン）審査を経てファイナルステージ入賞、ゼミ研修、シリコンバレー研修までの取り組みを、それぞれのポイントで、刺激的な体験を通して数人の仲間たちと薩摩、長州両藩の同盟を成し遂げた坂本龍馬になぞらえるなど、工夫を凝らして発表した。

こうした商品化の苦労や自分たちのアイデアを大勢の前で発表する機会を通じて、「とりあえずやってみよう」「田村伊織さん」というチャレンジ精神が身に付けた、仲間と一つのアイデアを議論して高める、多角的に物事を捉えることの大切さを学んだ。

高校校長会長、佐藤妃和さんを含めたメンバー4人は専門学校に通の後はインターネット通信を活用して2～3週間に一度のペースでフォローアップを重ねる。来年4月中旬、群馬県内で開催予定のゼミ合宿に参加して最終仕上げをしてシリコンバレー研修に臨む。担当教員1人が全ゼミ参加の旅費や宿泊費はGIA実行委が負担する。

の入試、翌々年生19年春の入学を目指すことになり、3年生だった場合は翌年、18年6月の入試、同年18年9月の入学を提案する。SFCやAO入試に関心のない高校生の場合でも、SFCゼミ参加からシリコンバレー研修まで一連のスケジュール原則、活用してもらい、起業家精神の醸成を促す。

SFCに進学した場合、田中L財団の資金提供により新たに制度化する奨学金も提案する。

から事業家としての覚悟やビジネスプランの作り方などを学ぶ。

運営組織力を強めるため、金融機関や新聞社との連携を進めている。喜多氏は「著名な経営者を前にビジネスプランを発表する場があるGIAは素晴らしい。群馬をお手本に中身を充実させ、石川のイノベーションの核にしていきたい」と投資を語る。

8月29日の新聞協会報で、地方各紙の起業支援「地域経済に新風吹き込む」の見出しで特集が組まれた。群馬と岡山の取り組みがベースだ。GIA実行委には福岡県の新聞社や自治体がヒアリングするなど、継続的に関心が寄せられており、今後も各地に起業支援の仕組みづくりが進みそうだ。

## 30日までエントリー募集

■募集部門

①ビジネスプラン部門▽高校生の部▽大学生・専門学校生の部▽一般の部　これから起業を目指す人のビジネスプラン、または既存事業には別に新たなビジネスを計画している、いわゆる第二創業のプランを募集します。

②スタートアップ部門　創業から5年未満の起業家が対象。新製品やサービスの開発、または生産や流通などのプロセスで革新的な手法を開発し、発展している事業の実例を募集します。

③イノベーション部門　創業5年以上の事業者を対象に、新製品・サービスの開発や生産・流通プロセスの革新でビジネスを発展させている事業の実例、または、本業とは別に新規事業を立ち上げ稼働させている事業実例を募集します。

■大賞・入賞特典

①起業家と行く米国・シリコンバレー研修ツアー（2018年春）②県内の起業家や各界のキーマンによる交流会「群馬イノベーション会議」のメンバー資格③群馬イノベーションスクール参加資格

■応募資格

①高校生以上の群馬県出身者、または群馬県在住、在勤の方②本社か主要拠点を群馬県内に有する事業主、または個人③群馬県内で創業ができる方

■応募方法

公式ウェブサイト（http://www.gi-award.com）にアクセスし、応募フォームに必要事項を入力してエントリーシートを添付の上、応募してください。

■スケジュール

①募集期間：9月30日（土）まで②1次（書類）審査：10月上旬③2次（プレゼン）審査：10月29日（日）、上毛新聞社④最終審査（ファイナルステージ）：12月2日（土）、ヤマダグリーンドーム前橋

■審査

応募いただいた事業プランや事業実例は、審査委員会及び選考委員が審査します。1次（書類）審査の後、2次審査として実行委員によるプレゼンテーションの審査を行い、各部門・部3組、合計15組をファイナリストに選出します。12月2日の最終審査は公開プレゼンテーションを行っていただき、審査委員会が入賞、大賞を決定します。

■問い合わせ先　上毛新聞社事業局（☎027・254・9955、平日午前9時～午後5時）Eメール（info@gi-award.com）

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード（GIA）2017」が始動。今月30日まで応募を受け付けている。5回目を迎えた今回から、高校生の起業意欲をさらに喚起するため、慶応大湘南藤沢キャンパス（SFC）と連携した手厚い起業家育成策を導入する。エントリー数は年々増え、昨年は過去3番目の応募があった。「求む、出る杭！」。今年はどんな「革新者」が現れるか！

GUNMA INNOVATION AWARD 2017

実家の温室で「GIAで貴重な経験ができた」と振り返る関根さん＝藤岡市内

昨年のビジネスプラン部門・高校生の部には28件の応募があり、1次（書類）審査、2次（プレゼン）審査を経て3組がファイナルステージに臨んだ。貴重な経験を糧に、それぞれの人生を歩み始めているファイナリストの今を追った。

### GIA2016高校生の部 ファイナリストは今

### クラスメートの助けで大舞台へ

入賞　藤岡北高卒業生　関根　翼さん

これまで売り物になるような規格外のシンビジウムを吸水性ポリマーとデザートカップを使って飾り付け、「一輪挿しにした商品「プチフルシンビ」を発売」。実家は藤岡市内で洋ラン園を経営、シンビジウムを出荷していることがヒントになった。しかし、アイデアはあっても、具体化する方法が分からない。

仲間の内田琢永さん、菅原由貴さんとともに臨んだファイナルステージは、ステージ上から審査員や各企業の関係者がずらりと並ぶ様子を見て足がすくんだ。それでも「クラスメートに先生が一緒だったので、思い切って発表できた。高校生のうちに貴重な経験ができた」と感慨深そうに振り返った。

今春、東京農業大に進学。花き栽培について学ぶ。方、帰省した時には実家の温室でシンビジウムの世話に精を出す。いずれは洋ランの園の2代目となろうもりだ。プチフルシンビの研究は高校の後輩たちに引き継がれたが、自分流の商品開発にも意欲を示す。「高級なものだけでなく、手軽に質を伴う商品を開発してプチフルシンビをより身近にしたい」。さらなるレベルアップへ思い残しはほぼ完売。今年も後輩たちに引き継がれたが、自分流の商品開発にも意欲を示す。「高級なものだけでなく、手軽に質を伴う商品を開発してプチフルシンビをより身近にしたい」。さらなるレベルアップへ思い残しはほぼ完売。今年も後輩を鼓舞するつもりだ。

### 議論重ねて内容深め

「戦国米セット」を手に「GIAにぜひ挑戦してほしい」と笑顔で話す（右から）鶴岡さん、高橋さん、田村さん＝沼田市内

利根沼田地域で栽培されている6種類のブランド米を一つにまとめ、「戦国米セット」として売り出す意図で、農家による講義・先端企業訪問などで構成するプログラムが今春参加した群馬イノベーションアワードのプロジェクトに採択された。「これまで実践してきた過去や組織の常識に臆することなく、少し怖いと思えるような課題に挑戦し、社会に貢献できた」と語った。

利根実業高卒業生　鶴岡　祥子さん　高橋明日香さん　田村　伊織さん

利根沼田地域ゆかりの真田氏の家紋「六文銭」をパッケージに盛り込んだ自作の観光マップも添えて地元色を鮮明にした。昨年販売した4Oセットは完売した。今年も後輩たちが300セットを販売する予定だ。

当初、商品化の道のりは厳しかった。地元農家に企画の意図説明すると、「本当にできるのか」と疑いの目を向けられた。仲間同士で議論を重ねてコンセプトを固め、農家を一軒一軒回って丁寧に説明した。徐々に協力の輪が広がり、完成にこぎつけた。

ファイナルステージでは、ライバル関係にあるコメを一度に味わえる特徴を伝えようと、自分たちを幕末に大政奉還の仲だった薩摩、長州両藩の同盟を成し遂げた坂本龍馬になぞらえるなど、工夫を凝らして発表した。

こうした商品化の苦労や自分たちのアイデアを大勢の前で発表する機会を通じて、「とりあえずやってみよう」というチャレンジ精神が身に付けた、仲間と一つのアイデアを議論して高める、多角的に物事を捉えることの大切さを学んだ。

高校校長会長、佐藤妃和さんを含めたメンバー4人は専門学校に通

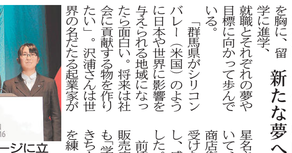
駅前などの放置自転車を回収し、レンタルやリース用の自転車として有効活用するプランを発表した。今春卒業した4人はGIAを通して学んだ貴重な経験を胸に、留学に進学、就職とそれぞれの夢や目標に向かって歩んでいる。

「群馬県がシリコンバレー（米国）のように日本や世界に影響を与えられる地域になったら面白い。将来は社会に貢献する物を作りたい」。沢浦さんは世界の名だたる起業家が集う米国・サンフランシスコに語学留学している。GIAでは新商品や新業態の開発は難しいが、やりがいを感じたという。

千葉県内の大学に進んだ吉野さんは、社会を豊かにするサービスを創造する力を養う学部に所属する。一つのビジネスを成功させるためには決断から行動までのスピードが数々のアイデアが肝心だという。

「事業を始めるには、いろいろな人の協力や、人と人とのつながりが大切だと痛感した」。太田市内の専門学校に通う星名さんはプランについて、県庁や市役所、商店街、大学で助言を受けたことを思い起こし、感謝の気持ちを表した。

前橋市内の携帯電話販売店で働く阿部さんも、学校外でのさまざまな経験を通じて、プランを練ったことが社会人になってからも役立っていると声を弾ませる。「お客さまがより良い生活を送るための手助けをしたいと語り、顧客に寄り添った一歩一歩な接客を心掛ける。


昨年のGIAファイナルステージに立つ（右から）阿部さん、沢浦さん、星名さん、吉野さん

前橋商業高卒業生
沢浦賢治郎さん　星名 貴政さん
吉野 樹生さん　阿部 晴香さん

## 米・シリコンバレー研修

ドロップボックスの社内を見学する参加者

群馬イノベーションアワード（GIA）の大賞・入賞者の特典が、グーグルやフェイスブックといった世界最先端のIT企業が集積しているシリコンバレーへの研修ツアー招待だ。今回から新たにビジネスプラン部門・高校生の部の入賞者も加わる。春のツアーで現地講師を務めたクラウドサービスのエバーノート日本法人前会長、外村仁さんが12月2日の最終審査「ファイナルステージ」で特別講演する。

### 来春より高校生も参加へ 聖地の熱気 肌で

「アメリカでは新しいことは取りあえずやってみて、やっていく中で修正をしていく。日本は検討に検討を重ねてもやってないことが多い」。外村さんは日米の起業風土の違いをこう表現した。AI（人工知能）が急速に進み、3年後のシリコンバレーの状況も予測が困難なほど変革スピードが速いと指摘した。

今春は入賞者も過去最多の42人が参加した。外村さんのほか、九州大カリフォルニアオフィス代表の松尾巨人さん、日本企業と連携して起業家を育成するWi上共同創業者兼CEOの伊佐山元さんの講義もあった。サンフランシスコではイノベーションスクール3期生の石川保智さん（プロベラコーポレーション社長）が、「これまで実践してきた過去や組織の常識に臆することなく、少し怖いと思えるような課題に挑戦し、社会に貢献できた」と語った。同じく3期生の中村有香さん（産業メディア社用男学校長）は「日本人の意識が非常に古い。このままでは日本は世界から取り残されてしまうと痛感した」と振り返った。

シリコンバレー研修の参加者に講演する外村さん

第一回から続くシリコンバレー研修は毎回、こうした専門家による講義・先端企業訪問などで構成されている。今春参加した群馬イノベーションアワードのプロジェクトは、「これまでの過去や組織の常識に臆することなく、少し怖いと思えるような課題に挑戦し、社会に貢献できた」と語った。同じく3期生の中村有香さん（産業メディア社用男学校長）は「日本人の意識が非常に古い。このままでは日本は世界から取り残されてしまうと痛感した」と振り返った。

### 聖地の熱気 肌で

目の当たりにした、数々の起業家を輩出して、毎回、こうした専門家による講義・先端企業訪問などで構成されている。今春参加した群馬イノベーションアワードのプロジェクトは、「これまでの過去や組織の常識に臆することなく、少し怖いと思えるような課題に挑戦し、社会に貢献できた」と語った。同じく3期生の中村有香さん（産業メディア社用男学校長）は「日本人の意識が非常に古い。このままでは日本は世界から取り残されてしまうと痛感した」と振り返った。

## 慶応大SFC 国領 二郎教授に聞く

### 世界知り、地元に貢献を

GIA審査委員長の国領二郎教授に高校生入賞者を受け入れることになったきっかけや狙い、英語のプレゼンテーションを米国・シリコンバレー研修で取り組む意義などについて聞いた。

◇　◆

**—高校生が自ら考え出したビジネスプランを、米国の投資家にプレゼンすると夢のような計画だ。**

GIAに当初から参加する中で、高校生が自分の着想で世の中や身の回りを変えていこうという姿勢を見てきた。若い世代のこうした能動的な姿には、日本は今後も希望が持てる」と感心させられる。

高校生にも本場のシリコンバレーで発表する機会を設けられないかと考えていた。準備は大変かもしれないが、得がたい体験となるのは間違いない。

**—米国での発表に向けて どのような指導を想定しているのか。**

私と博士課程の学生が監督するが、実際の指導には私のゼミに在籍する部生らを充てる。情報技術を活用したビジネス創造を研究するゼミで、学生は自分でもしょっちゅうプレゼンをしているし、実際に自らの着想を形にするため在学中に起業する「社長学生」は珍しくない。

高校生にはGIAで入賞したら、すぐにシリコンバレーの英訳に取り組んでもらい、SFCで指導役の学生と顔合わせをする。その後の約5カ月間で会合なども行い、海外で好まれる発表手法やビジネスプラン自体の磨き上げなどを論点に議論しながら仕上げていく。

**—米国ではプレゼンに加え、質疑応答・討論・語学力が必要となる。**

ゼミ在籍の学生18人の大半が留学生や帰国子女、英語で授業を行っているし、日本語を話せない学生もいる。当然、高校生も日本語は禁止。そういう環境に触れるだけでも大いに刺激になるはずだ。

プレゼンには論点をきちりとまとめて端的に説明する「エレベーターピッチ」という手法があるこれは、乗り合わせたエレベーターで関心を引きつけるための30秒間での提案。これを基に、収支計画や売上予測、市場規模などを盛り込む3分、5分、15分の提案も作れる。発表後の質疑に備え、学生との議論で想定される問いを掲げておくのも大切だ。そうする中で英語力は鍛えられる。

高校生にとって刺激的で楽しいはずだ。大変な部分もあるかもしれないが、GIAから巣立った人材が事業を広げ、GIAの後輩や群馬に還元できる循環ができたら、すごくエキサイティングだと言える。米国プレゼンテーションに挑む高校生が世界に飛び出し、やがて投資側になって地元に貢献できる人になってほしいと願っている。

**体験をアピールすることで、SFCのAO入試に挑むことも考えられる。**

前提として理解してほしいのは、入試そのものをどうするとか、入試対策を手助けすることはできない。ただ、SFCは能動的に自ら考えて行動し移せる学生を求めており、AO入試は学力以外にもさまざまな物差しで測って優れた人材を選考する手法だ。自ら考え出したビジネスプランでGIAを勝ち抜き、学生との議論で英語版を磨き上げ、米国の投資家の前で発表して度胸をつけた高校生は、結果としてSFCにぜひとも望ましい人間像になるのではないだろうか。

**—高校生の米国プレゼンをきめ、GIAの今後の展望についても。**

挑戦する高校生は計り知れない成長が期待できるし、指導する学生にとっても大きな学びになるはずだ。

起業支援のサイクルが確立するには30年かかると言われる。SFCは現在約20年、卒業生で不成功を収めた実業家が投資する側になって後輩を支援するサイクルがようやくできた。GIAは5年目を迎えるが、これからが大切。GIAから巣立った人材が事業を広げ、GIAの後輩や群馬に還元できる循環ができてはじめてGIAが成功だったと言える。米国プレゼンテーションに挑む高校生が世界に飛び出し、やがて投資側になって地元に貢献できる人になってほしいと願っている。

起業家と、起業家支援者をつなぐプロジェクト「群馬イノベーションアワード2017」に協賛しています。（順不同）

JINS 株式会社ジンズ
株式会社コシダカホールディングス
相模屋食料株式会社
株式会社オープンハウス
足利銀行
SMBC日興証券
北群馬信用金庫
桐生信用金庫
群馬銀行
群馬県信用保証協会
しののめ信用金庫
大和証券
高崎信用金庫
東京海上日動
東和銀行
利根郡信用金庫
日本政策金融公庫
野村證券
MIZUHO
みずほ銀行
みずほ証券
三井住友銀行
三菱UFJモルガン・スタンレー証券
糸井商事株式会社
各木工業株式会社
赤尾商事株式会社
株式会社アサヒ商会
株式会社石井設計
石川建設株式会社
USUI
おにし堂 ベルセレモニー
株式会社オルビス
共愛学園前橋国際大学
ELSPINA
CLIMB
株式会社群成舎
群馬綜合ガードシステム
国際警備株式会社
Coco-Lo
大栄産業株式会社
佐藤眼科
高崎商科大学
タカラデンキ
CHUO
ディーズスポーツプラザ
株式会社こもれび
水と生きる SUNTORY
株式会社シルックス
株式会社三ラージ
Sowa
ナカダイ
株式会社西建
NEXUS
HANASUKE
P-WORLD
ひかり税理士法人
PIZZERIA PESGA!
ひなた整骨院グループ
Farmdo
富士スバル
富士薬局グループ
PRIMARY GROUP
Primavera 株式会社プリマベーラ
bona
前橋園芸株式会社
宮下工業株式会社
株式会社メモリード
株式会社ヤマニ熱工業